

# 『延喜式』へのTEI適用と 日本史資料のテキストデータ共有・流通

Application of TEI to *Engishiki* and Japanese History Text Data Sharing

小風尚樹・後藤 真

KOKAZE Naoki and GOTO Makoto

はじめに

①プロジェクトの具体像

②人文情報学のありようとしての TEI 基礎データ構築の意義と課題

おわりに

## 【論文要旨】

本論文では、『延喜式』の本文情報のデジタル化と流通の手法について検討を行った。とりわけ TEI (Text Encoding Initiative) という、国際標準を適用し作成したデータについての説明を行い、さらにより広く日本の歴史資料のテキストデータ共有のありようについても述べた。

なお、本研究についての具体的な内容については、すでにいくつかの国際会議等でも発表を行うとともに、論文化も予定されている。そのため、本論文では、これらの技術的側面には詳細に触れることなく、より歴史学の立場からの意義について検討を行った。

筆者らはテキストデータの国際的流通と研究での高度活用を目指し、延喜式の TEI マークアップを行うこととした。TEI (Text Encoding Initiative) とは、人文学に関するテキスト資料を国際的に流通・共有・活用することを目指したプロジェクトであり、そこで作られた規格のことも呼称する。TEI は人文情報学研究の一つの手法として作られているため、歴史資料をどのように理解し、データを加えたかなどの情報をエレメント (タグ付の要素) によって記録することができる点が大きな利点である。このようなメリットに鑑み、筆者らは TEI によるデータ化を提案した。

特に『延喜式』の量的なデータについて TEI によるマークアップをほどこし、トランザクショングラフィの手法を用い、全体像を解析する可能性について、踏み込んだ検討を行ったほか、合わせてこれらのマークアップ手法を基盤データとして用いるためのマニュアルの作り方について検討を加えた。

日本史研究の活性化という観点からは、このような歴史資料や研究手法の可視化は欠かすことができない。人文学や歴史学が「危機」と呼ばれる現在であるからこそ、基盤データを構築し、自由に流通し、様々な可能性を開く研究を検討することが求められる。

【キーワード】 TEI, 延喜式のマークアップ, 情報基盤構築, 歴史情報学, 人文情報学